

令和7年度 自己評価及び学校関係者評価書

令和 8 年 3 月 18 日

札幌市立 美香保小学校

1 今年度の重点目標

子どもたち一人一人が安心して通いたくなる小学校

2 本年度の経営方針

・人間尊重の教育の推進 ・学力力、豊かな心、健やかな体の育成 ・働き方改革の一層の推進 ・家庭や地域とともにある学校づくり

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	重点項目	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
			達成状況	改善方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
目指す子ども像	キラキラにこにこみかほっ子	・自分から明るくあいさつ ・言動は周囲の様子や相手の気持ちを考えて ・ふわふわ言葉でコミュニケーション ・そうじは みんなで 最後まで ・運動大好き 外で元気に ・早寝・早起き・朝ごはん	A	・あいさつ週間の在り方の改善(全学年が随時代表と なつて) ・運動週間のこれまで以上の奨励、日常的に運動できる場の設定 ・スクールカウンセラーや栄養教諭、養護教諭による専門的な授業実践(継続) ・担任との情報共有、実態把握(継続)	A	A
学校運営協議会委員による意見		○美香保小学校の子どもたちは、地域でもあいさつしてくれる子が多く見受けられた。あいさつ週間の効果が見られる。○児童が担任以外の先生と関わる場面を多く設けているのがとても良いと思う。○子どもの個性が違うが、伝統を守って「キラキラにこにこみかほっ子」が継承されているが良い。これからも続けてほしい。				
人間尊重の教育	○「自分が大切にされている」と実感できる教育活動 ○「子ども理解」を大切にしたい教職員のかかわり ○いじめの問題や不登校の状況に組織で適切に対応する生徒指導の実現	・「子どもの声を聴く」ことを意識 ・子どもの状況を組織的に把握、理解 ・特別新教育の理解と実践力の向上 ・学校いじめ防止基本方針に則ったいじめの問題への対応	B	○生徒情報データベースへの書き込みを通して、全校を網羅した児童理解の充実が図られた。 →書き込み、活用を今年度以上に習慣化させ、全職員で把握できるようにする。 ○生活アンケート、悩みやいじめに関するアンケートと合わせ、隔週のシャボテンを活用し、子どもの声を聴くことができた。 →隔週のシャボテンでの聞き取りを即時的な対応に生かしていく。 ○いじめ防止対策委員会を定期的に開催し、状況の把握を共有するとともに、今後について話し合うことができた。 →生徒情報データベースやシャボテンログなどの情報と並行していじめ防止への組織的な対応を継続していく。	A	A
「学力力」の育成	○子どもが学びのコントローラーを握る課題探究型の授業作り ○研修の充実 ○自学自習できる学びの遂行 ○読書活動の推進	・「振り返り」に重点を置いた授業作り ・ICT研修 ・ぐんぐんカード 表彰式、グッドノート、美香保塾を通じた家庭学習の推進 ・朝読書を中心とした読書活動の推進	A	○一学級一授業研究を通して、「振り返り」をどのように位置付けることが学習の原動力になるかという視点で検討を重ね、子どもが主体的に学ぶ姿につなげることができた。 ○ICT研修を位置付け、様々なアプリの使用法や授業での活用方法を学び、日々の授業で実践することができた。 ○表彰や玄関前のグッドノートがあることで、それを目標として頑張る子がいた。表彰されている児童の顔が達成感に満ちていた。 ○美香保塾に楽しく参加する姿が見られた。また、家庭学習につなげている児童も見られた。 →より一層、子どもが学習の目的を自分ごととして考えられる授業の研究や研修の在り方を改善していく。 ○朝読書(担任交換読み聞かせ)、委員会活動、開放図書館での行事などを通し、読書の楽しさや面白さを伝えていくことができた。	A	A
「豊かな心」の育成	○「あいさつ運動」に関わる取組を、学校一丸となって活発化させていく。 ○日常的に異学年交流が行われるような環境づくりや活動内容の工夫を行っていく。	・互いに思いやりをもてるような「あいさつ運動」の強化。 ・日常的に自ら係る異学年交流を目指し、活動内容や場の設定を工夫する。	A	○あいさつ週間の取組(代表委員+各学年)で行うことで、「あいさつを交わす気持ちよさ」が広まった。 →より一層、日常的なあいさつを目指した取組の工夫。 ○異学年の交流の場が子ども同士のつながりを深め、学年によっては、日常的な関わりも増えている。今年度は、給食交流を行うなど、新しい取組も行うことができた。 ○生徒指導情報データベースを活用した組織での対応や全教職員が見える情報の共有に結びついている	A	A

「健やかな体」の育成	<p>○統一した目標のもと、教員間の共通理解を図り、自己表現を目指す子ども。</p> <p>○運動に親しむ習慣化と体力の向上を図り、健やかな身体を育成を目指す。</p> <p>○「みんなで」「いつでも」「どこでも」できるような運動機会の充実を図る。</p>	<p>・各学年の発達段階にあった狙いや目標の設定</p> <p>・主体的に運動する態度を育むための取組の継続</p> <p>⇒「マット・跳び箱週間」</p> <p>・運動に親しむための環境整備</p> <p>⇒「外遊び・体育館遊び」の奨励・グラウンドの環境整備</p> <p>・養護教諭、栄養教諭、SCとの連携</p> <p>⇒心と体の健康に関する指導の充実</p>	B	<p>○無理なく、安全に目標に向かって学習することができた。</p> <p>○徒歩遠足を「健やかな体の育成」として位置付けた。長距離を歩く機会が減ってきている児童にとって良い機会となった。</p> <p>○マット週間・跳び箱週間等の運動週間の設定は、子どもたちの意欲を引き出すとともに、運動機会の確保と技能向上を促す取組になっていた。</p> <p>→次年度も継続していく。積極的に運動に取り組む児童とそうではない児童との二極化は見られるので、今後も「運動したくなる」工夫と教師による促しを続けていく。</p> <p>○SC授業、栄養教諭による食指導、養護教諭による保健指導など担任以外が行う授業（専門職による授業）が多く、興味をもって学ぶことができた。</p> <p>→次年度以降も継続していく。担任と連携を取りながら、より一層児童が「そうなんだ！」「実践してみよう！」と思える授業、指導内容を目指す。</p>	B	A
地域と共にある教育（コミュニティースクール）	コミュニティースクールの取組実践	<p>・コミュニティースクールの取組</p> <p>・パートナー校との連携</p> <p>・教職員間及び、児童・生徒の交流の充実</p>	B	<p>○みかほっ子サミットなど、パートナー校と連携を図りながら、少しずつ取組を進めることができた。</p> <p>○スキー学習ボランティアの案内を通し、地域人材の活用の一歩を踏み出すことができた。</p> <p>→今年度以上の積極的な取組ができるよう、計画・実践をしていく</p>	B	A
学校運営協議会委員による意見		<p>○人間尊重の教育の改善方策が「システムの充実」となっているが、ヒューマンエラーによる漏れが見受けられるので、そこに関する改善策が必要。</p> <p>○専門職による授業は、児童にとって良い刺激となり継続する意味が大きいと思う。</p> <p>○自宅（主に児童会館）での学習習慣が身に付いているように感じる。</p> <p>○どうしても子どもたちの運動機会は各家庭によって差があると思うが、子どもたちのスポーツに対する理解度が低いように感じる。体育の授業を通して、学んだり考えたりできると良い。</p> <p>○パートナー校3校での取組はとても良い。その取り組みにも地域として関われば良い。学校・保護者・地域が協力して子どもを育てるのは最高だと思う。</p>				
学校独自に設定する分野		「子ども理解」を大切にされた特別な教育的支援	B	<p>○アセスメントシートの作成</p> <p>○学年・ブロック間での交換授業</p> <p>○担任による通常学級と特別支援学級の授業交流</p> <p>→年度初めから計画的に実践を積み上げ、今年度以上に児童が多くの職員とのつながりをもち学校全体で支援していけるように取組を積み重ねていく。</p>	B	A
		教育環境の維持・向上	A	○学校内外の環境整備が維持され、児童や教職員の過ごしやすさ、働きやすさを維持していた。	A	A
		働き方改革	A	<p>○担任業務を行える時間の確保を可能な範囲で行った。</p> <p>○担任と職員室の連絡ツールを活用することで、職員室にいる職員が担任の代わりに行えることも増え、担任の時間的、物理的負担を減らすことができた。</p>	A	A
学校運営協議会委員による意見		<p>○働き方の改善と合わせ、児童に寄り添った学校になっていて素晴らしい。</p> <p>○通常学級内の特別な支援を必要とする児童に対する情報共有はとても大切だと思う。</p> <p>○校内でスマートフォンを使用することができなくなり不便な時もある中、連絡ツールとしてトランシーバーやChromebookなどを活用していることが分かった。緊急の時には必要と思われ良い対応だと思う。</p>				